青山学院は2014年、創立140周年を迎えました

AGU NEWS

AOYAMA GAKUIN UNIVERSITY NEWS

2015 No.76
[2015年4月～5月号]

青山学院大学
〒150-8366 東京都渋谷区渋谷4-4-25
http://www.aoyama.ac.jp/

特集

AOYAMA VISION

Servant Leadersを育む　青山学院150年への挑戦

グローバル時代に即した教育・留学をサポート

TOPICS 青山学院創立140周年記念国際シンポジウム・講演会
「グローバル秩序形成における国連の役割」
「国際化と日本人」
青山学院創立140周年記念トークセッション
「挑戦する君たちへ ～夢を追い続ける3人からのメッセージ～」

AGU Lecture マーケティング

青山キャンパス

Aoyama Gakuin since 1874

特集

AOYAMA VISION

Servant Leaders を育む　青山学院 150 年への挑戦

青山学院創立140周年の2014年を起点に、
今後10年間でさらなる飛躍を遂げるため策定された「AOYAMA VISION」。
そこには2024年の青山学院のあるべき姿と、取り組みの柱となる3つの重点テーマ、
テーマ達成のため今後10年で実現する7つのアクションが示されています。
「AOYAMA VISION」策定の意義や青山学院が目指すサーバント・リーダー像、
そして実現に向けての取り組みまで、
梅津順一青山学院院長、仙波憲一青山学院大学学長、シュー土戸ポール青山学院宗教部長に聞きました。

VISION 2014-2024

すべての人と社会のために
未来を拓くサーバント・リーダーを育成する総合学園

今、世界が必要としているのは、自分の使命を見出して進んで人と社会とに仕え、その生き方が導きとなる人、サーバント・リーダーです。

青山学院が育むサーバント・リーダーは

- リベラルアーツ・深い専門知識
- 他者を敬い違いを受け入れる心
- 人と社会に仕える行い
- Sincerity Simplicity

を兼ね備えた人、すなわち「地の塩、世の光」を体現する人物です。

ACTION

AOYAMA VISION 達成のための 3つのテーマ 7つのアクション

- オール青山による個に応じた成長支援
  - ACTION 1 サービス・ラーニング
- 世界と地域に開かれた学院
  - ACTION 2 SEED+ 青山グローバルスタンダード
  - ACTION 3 5大陸をつなげる国際教育
  - ACTION 4 キャリア教育・海外インターンシップ
  - ACTION 5 Aoyama Global Passport System
  - ACTION 6 IAMSCU※（アイアムスク）リサーチ大学コンソーシアム
- 卓越した知を創造する研究共同体
  - ACTION 7 総合大学院と独創的な研究拠点構築

※IAMSCU: International Association of Methodist Schools, Colleges, and Universities（国際メソジスト関係学校・大学連盟）

「AOYAMA VISION」が示す進むべき道

青山学院は昨年、創立140周年を記念して150周年に向けての「AOYAMA VISION」を策定しました。聖書にも「幻なき民は滅びる」という言葉があるように、ヴィジョンというのはとても大切なものです。ただ何となく時間を過ごすのではなく、あるところを目指して進んでいくことが肝要であり、とりわけ教育にはヴィジョンが欠かせません。「AOYAMA VISION」では、最も大事なキーワードをサーバント・リーダーの育成と定めました。地球規模で生活が一体化しているグローバリゼーションの時代では、他の国や社会からの必要に応えることでわれわれは初めて存立できます。ですから、他の人に仕えることができる精神を持った人を世に送り出すための教育を行いたいと考えます。地球社会共生学部の開設や5大陸をつなげる国際教育の推進などもその一環です。

また、世界のみならず地域社会とのつながりも重要です。「AOYAMA VISION」では「グローバルアカデミックタウンの創造」として、青山学院が地域社会に貢献する形を示しています。学生のためだけの学校ではなく、校友がいつでも帰ってこられるような場所でありたいですし、保護者や地域の方が積極的に利用していただける施設や気軽に参加できる催しがあるなど、活発な交流が行われる場所でもありたい。さまざまな活動を通じて地域と世界がつながれば、青山学院そのものがサーバント・リーダーとしての役割を果たすことができるでしょう。

青山学院院長　梅津 順一

「AOYAMA VISION」への取り組み、青スタのグローバルスタンダード化

サーバント・リーダーの育成は、大学にとっても大きな達成課題であるとともに人材養成の指針となるものです。

サービス・ラーニングの重要性は論をまちません。ボランティア・ステーションにみる学生の活動は、主体的に企画立案し仲間を募り、今では被災地に限らず様々な地域社会への貢献、学習ボランティア、さらには国境を超えたグローバルな社会貢献活動へと発展してきています。今後は座学と実践の融合をさらに促進し、サーバント・リーダーの育成に努めたいと思います。

青山スタンダードは、全学生が学ぶ共通教育のプラットホームであり、幅広い領域を学び専門性への橋渡しをする教養教育です。多分野の知見を学ぶことで生き方や職業観等について考える場ともなっています。ヴィジョン対応として、科目群の一部を英語で学ばせ語学力向上とグローバル化を進めます。また単位化された短期海外研修やインターンシップ科目の開設等のキャリア教育の充実、日本学や日本語講座を増加させ海外に開かれた大学を目指し、ボトムアップ形式で学生の実力を鍛えていきたいと思います。

また現代の人間社会が抱える複合的かつ重層的課題解決に取り組むために、研究の高度化を図り卓越した知を創造する研究共同体として複数の学問領域を横断する総合大学院の実現を目指します。

これらを通じて7つのアクションの共通基盤にある研究教育の高度化と世界に開かれた大学の形成へのスタートとしたいと思います。

青山学院大学学長　仙波 憲一

世界の大学とつながるIAMSCU

サーバント・リーダーは、「仕える者」「指導者」という一見対極にある二つの名詞がつながることで、「縁の下の力持ちとして人々を支えるようなリーダー」という、キリスト教のリーダーシップ精神を表す言葉になります。このあまりなじみのない言葉を「AOYAMA VISION」の核の部分に用いることに対し、学院内では長い時間をかけて議論を重ねてきました。その結果、サーバント・リーダーは「地の塩、世の光」というスクール・モットーの体現者とも合致することから、これ以上ふさわしいものはないという結論に至りました。今後10年間、青山学院の定義するサーバント・リーダーの意味を繰り返し説明することは、青山学院が何を目指しているかを発信し続けることにもつながります。

「AOYAMA VISION」のアクションの一つにIAMSCUリサーチ大学コンソーシアムが挙げられています。IAMSCUは質の高い教育を共につくり上げるための組織で、加盟校とは交流しやすい環境が整っています。本学はハブ校としてIAMSCUに加盟している世界のリサーチ大学とつながり、国際共同研究や交換留学などを行っていきます。「AOYAMA VISION」によって今後10年間の構想がはっきりしたことで、ネットワークを有効に活用できるようになり、より可能性が広がったのです。また、青山学院がサーバント・リーダーとしてIAMSCUを支え、よりよいネットワークをつくることも期待されるところです。

青山学院宗教部長
シュー土戸 ポール

特集 グローバル時代に即した教育・留学をサポート

海外留学や外国人留学生の受け入れに関する業務をはじめ、本学と海外の大学・教育研究機関との交流を促進するための業務を行っている国際交流センター。近年、国際教育を強化するための取り組みが活発になっていますが、本学ではグローバル化に向け、さまざまな取り組みを推進しています。

「グローバル人材育成」を目的とした学生の海外派遣には特に力を入れており、多くの学生に海外留学の機会を提供するためのプログラムや支援の拡充を図っています。

海外留学を実現するため「留学基礎力」を身に付けることを目的とした授業（留学計画、留学に関する基礎知識を学ぶ、英語による英語4技能向上）が青山スタンダード科目「キャリアデザイン・セミナー」の一つとして開講され、留学を目指す学生をサポートしています。

また、協定を結んでいる数多くの大学からの外国人留学生を受け入れ、キャンパスにいながら留学生とフレンドリーに国際交流ができる場を設けています。キャンパス内で気軽に語学力向上と国際交流ができる「青山学院チャットルーム」は年間利用者がのべ1万名にも上る、人気のコミュニケーション広場です。

国際交流センター ウェブサイト　http://web.iec.aoyama.ac.jp/

青山学院チャットルーム
毎月のように開催するイベントでは、チャットルーム利用者が一堂に会して盛り上がります。

国際交流センターの主な取り組み

TOEFL・IELTS対策講座

多くの海外協定校への留学にはTOEFLかIELTSスコアの提出が必要です。これらのスコアアップをサポートするため、2015年度も対策講座を開講します。昨年受講した学生からは、「同じ目的を持った仲間と学ぶことで刺激になった」「スコアアップの勉強の指針になった」などの感想が多く寄せられています。

キャンパス	対策講座	募集ガイダンス	定員	講座日程	目標スコア
青山	TOEFLiBT	4月９日（木）昼休み	25名	4月22日（水）～7月15日（水）	TOEFLiBT 80以上
	IELTS	4月７日（火）昼休み	15名前後×3	4月22日（水）～7月15日（水）	IELTS 5.5～7.0以上
相模原	IELTS	4月10日（金）昼休み	20名	4月29日（水・祝）～12月2日（水）	IELTS 5.5以上

□ 2015年度本学学生対象　IELTS特別会場試験

通い慣れたキャンパスでIELTSを受験することができます。特別会場試験では午前中に筆記試験、午後に面接を受け、1日で試験が終了します。

キャンパス		日程	申し込み締切
相模原	第1回	5月30日（土）	4月24日（金）17時
	第2回	7月11日（土）	6月５日（金）17時
青山	第3回	8月29日（土）	7月24日（金）17時
	第4回	9月19日（土）	8月14日（金）17時

留学フェア

留学フェアでは、留学に関心がある学部生や高等部生、および保護者の方を対象に、協定校留学（派遣交換留学）システムや海外語学研修についての情報提供を行っています。留学経験者や職員、外部団体による個別相談やセミナーなどを行います。2015年度は、6月中旬に開催予定です。興味のある方はお気軽にご来場ください。

協定校留学・認定校留学

国際交流センターを窓口として留学する長期留学制度には、本学と協定校双方で学生を派遣し合う「協定校留学（派遣交換留学）」と、希望留学先の入学許可を取得した上で申請を行い、認められた場合に留学できる「認定校留学」の2種類があります。協定校へ留学するには語学力をはじめとした出願資格を満たし、学内の選抜試験に合格することが必要です。協定校は25ヶ国84校あります（2014年5月現在）。いずれの制度も休学することなく、4年間で本学を卒業することが可能です。

通常、留学期間は約1年間ですが、半期留学として、下記3つのプログラムがスタートしています。

〈半期留学プログラム〉

□ ASEAN諸国への協定校半期留学プログラム

経済成長著しいタイ、マレーシア等のASEAN諸国の協定校へ、意欲的な学生を特別派遣留学生として半期派遣します。往復渡航費、宿舎経費は本学が負担、留学先での授業料も免除される他、留学期間が本学の在籍期間に算入され、単位認定制度の適用対象となります。

派遣先対象協定校　（2015年度派遣募集実績）
ベトナム：ホーチミン市人文社会科学大学
タイ：チュラロンコン大学、カセサート大学、タマサート大学
マレーシア：マラヤ大学
※派遣先対象協定校は年度ごとに変わる場合があります。
※併せてタイ、マレーシアの協定校在学生の受け入れも実施します。

内堀 友貴さん（写真右）
総合文化政策学部 総合文化政策学科3年
留 学 先：Chiang Mai University
（タイ・チェンマイ大学）
留学期間：2014年8月～2014年12月

チェンマイ大学に半期留学をしました。勤勉で優秀な学生たちとの意見交換は非常に有意義で、自分を成長させてくれました。

NEW

□ MISEN* Student Exchange Program

*Methodist International Student Exchange Network

本学が加盟するMISENのアメリカ加盟校への半期留学プログラムです。協定校への派遣交換留学同様、留学期間が本学の在籍期間に算入され、留学先での授業料が免除となる他、継続履修制度や単位認定制度の適用対象となります。

NEW

□ ACUCA* SMS Program

*Association of Christian Universities and Colleges in Asia

本学が加盟するACUCAのアジア加盟校への半期留学プログラムです。協定校への派遣交換留学同様、留学期間が本学の在籍期間に算入され、留学先での授業料が免除となる他、継続履修制度や単位認定制度の適用対象となります。また、合格者はACUCAの生活費補助金（US$300/月）と旅費補助金（US$750上限）に申請が可能です。なお、審査はACUCAによって行われます。

海外語学・文化研修

語学力の向上と、各国の文化や社会に対する国際的視野を広げることを目的とした、大学主催の海外語学・文化研修をはじめ、学部・学科や宗教センター主催の特色ある研修を用意しています。これらの研修の多くが単位認定対象となっており、奨学金が支給されるプログラムもあります。

NEW

海外ビジネスインターンシップ

海外での就業経験を通じて実践的な英語力を磨き、積極性や仕事に対する責任感、キャリア意識を身に付け、グローバルな舞台で活躍する人材育成を目的としたプログラム。アメリカ（サンフランシスコ）のインターンシップ先は一般企業等、滞在先は民間寮で、スカイプ面接に合格することが参加条件となります。オーストラリア（シドニー）の参加条件はIELTSやTOEIC等の点数が基準を満たしていることで、インターンシップ先は一般企業、観光関連企業、メディア関連企業、ファッション・アパレル関連企業、ギャラリー・博物館等の分野からの選択、オーストラリア人家庭にホームステイします。本プログラムは単位認定の対象となる他、参加学生には国際交流センターから奨励金が支給される場合があります。

申し込み・問い合わせ先：国際交流センター（青山キャンパス17号館2F、相模原キャンパスB棟1F）

青山学院創立140周年記念国際シンポジウム・講演会

国際シンポジウム「グローバル秩序形成における国連の役割」——国際政治経済学部、国際研究センター主催

国際シンポジウム「グローバル秩序形成における国連の役割」を開催し、国連の歴史、現状、課題についての活発な議論が聴衆をも巻き込む形で展開されました。

まずアダム・ロバーツ氏が、「国連と人道的介入の正当性」と題して報告されました。ロバーツ氏は、「冷戦が終焉してから国連安全保障理事国が武力紛争に不関与の立場をとる機会は減少。逆に国連は、平和活動、侵入軍の撃退、住民の保護、秩序の回復、テロとの戦い、体制の変革にまで至る多様な目的を持つ武力介入と関わらざるを得なくなっている」と指摘されました。

とはいえ、ガザ地区、シリア、ウクライナの問題で明らかなように、国連による集団安全保障体制が効果的に機能しているとは言い難い状況です。特に介入方法には一貫性がなく、場当たり的でもあります。その理由としてロバーツ氏は、国連をバイパスした大国の介入、安保理常任理事国の選択主義、国益への配慮の優先などを指摘されました。

もっともロバーツ氏に従えば、P5(安保理の常任理事国5か国)の拒否権のみが原因であると考えるわけにはいきません。安保理の授権のある介入への参加にさえ、多くの国々が消極的姿勢をみせるからです。「いずれにしても介入で成功を勝ち取るためには、対象をある程度選択せざるを得ないとしても、その選択を正当性にかなったものにすることが課題である」とロバーツ氏は強調されました。

次に登壇したデイヴィッド・マローン氏より、「国連安保理と勢力均衡政治」という題で報告があり、「安保理は冷戦終焉後、国家間戦争を越えて保護する責任、テロとの戦い、領土紛争にまでも関与せざるを得なくなっている」と指摘されました。

また、「安保理という組織、それ自体の改革も急務となっている。さらに、主権国家間の妥協を原理とした安保理は、人権概念の浸透、NGOなど非国家主体の影響力や決定力の増大、国際刑事裁判所の設置などによる主権の弱体化によってもまた、変貌を迫られている。平和や安全の牽引車としての役割を果たせるように、安保理へ改良を加えてゆくことが重要である」とマローン氏は強調されました。

「国連と人権の促進」について報告した横田洋三氏は、人権宣言起草時のエレノア・ルーズベルトの貢献を引き合いに出しながら、国連創設期に人権が目標の一つに加えられたことが、のちの世界における人権擁護にいかにプラスの効果を及ぼしたのかについて紹介されました。

「その後も国連サークルは、人種差別撤廃条約、自由権規約、社会権規約などの条約の束を作り、なお女性差別の禁止、拷問の禁止、子どもの権利保護などにおいても着実に成果を挙げた。今日では、国連が各国の人権状況をモニターし、人権法制について助言、勧告することが一般的になっている。今後は、個人も国際法の権利主体であるという理解のもと、いかに国際法理論を実践に合うように整備していくかも重要となる」と横田氏は指摘されました。

司会のチェン・ポール 法学部教授、青井千由紀 国際政治経済学部教授も加わって活発な質疑応答が繰り広げられ、聴衆にとって国連についての理解を深める有益な機会となりました。

2014年10月8日(水)青山キャンパス17号館本多記念国際会議場にて

(国際政治経済学部長　押村 高　記)

<パネリスト>
アダム・ロバーツ氏
(英国学士院前総裁、青山学院大学名誉博士、オックスフォード大学名誉教授)
デイヴィッド・マローン氏(国連大学学長、国連事務次長)
横田 洋三氏(人権教育啓発推進センター理事長、前東京大学教授)
<司会>
チェン・ポール(法学部教授)
青井 千由紀(国際政治経済学部教授)

川口順子氏講演会「国際化と日本人」——国際政治経済学部、国際研究センター、外交・国際公務指導室主催

元外務大臣・元環境大臣・前参議院議員の川口順子氏による講演会「国際化と日本人」を開催しました。

川口氏はまず、自身が関わった「世界海洋委員会」の活動を紹介しつつ、国際化における民間シンクタンクの役割を強調されました。「政治家や官僚だけではなく、『民間が世界秩序の創造に寄与する』というアメリカ的民主主義の発想に支えられた委員会の姿勢は、日本が大いに見習うべき対象である」と川口氏は指摘されました。

「この種のシンクタンクは、国境を超えた広報活動を展開し、さらに署名という形での賛同者を募ることまで考えて、報告書の作成を行っており、民間レベルでもまた、このような大がかりな手法で世界の秩序の形成に関わっていくことができる」と解説されました。

次いで川口氏は、「若者が内向きになっている」という世評とは裏腹に、多くの日本の若者が世界に飛び出し活躍している事実を指摘されました。世界を一つの舞台として考え、国境を超えて活動の場を選び取っていく若者たちに対する熱い思いを述べられました。

その際に、未来を担う国際人に要求される資質として、川口氏は「論理性」を挙げました。「グローバル社会では、異なった文化的背景を持つ人々が対話し、納得し合って秩序を構築している。そこに入っていくために必要な武器は、論理性である。また、論理的な思考を展開するための手段としての語学も重要である。ここでいう言葉とは、各国の文化を学ぶための言語ではなく、論理的に議論し交渉する手段としての言葉である」と強調されました。

さらに川口氏は、論理と言葉を身に付けたとしても、相手から信用されなければ意味がなく、国際貢献にはそれを支える「人格」が必要である、という持論を述べられました。世界各地で起こることを「日本との関わり」というまなざしで当事者として捉え、また、置かれた立場を世界との関わりにおいて捉える思考が大切、という点を強調し、講演を締めくくりました。

質疑応答で川口氏は、「留学中に周囲から日本人として期待され、誇りと同時にプレッシャーを感じた」という学生に対して、「日本が世界中から好意を持たれることはむしろチャンスであり、将来の大きな自信につながるはず」と励まされました。

また、世界の多様化の中で「国の代表として国益を基準にものを考えることに戸惑いはないか」という問いに対しては、「その場に応じて自分が何を望み、どこを目指しているか、全身全霊で考え、答えを出していくことが重要」と回答されました。

最後に、国際化という面で、「二重国籍を認めない日本政府には問題があるのではないか」という質問に対して、川口氏は、「歴史や伝統に根ざした難しい問題ではあるが、『国籍にとらわれない』価値観を身に付けることも重要ではないでしょうか」と応答しました。

最後に川口氏は、当日聴講していた本学の学生に対して、「自分が恵まれている」という点、また「恵まれているものには相応の責任がある」という点を自覚して、社会からの負託に応えるべく、それぞれの分野での活躍を目指してほしい、というメッセージをくださいました。

日本の代表的国際人としての川口氏の講演会は、学生が国際貢献に向け決意を新たにするための、特別な機会となりました。

2014年10月16日(木) 青山キャンパス17号館本多記念国際会議場にて

(国際政治経済学部長　押村 高　記)

青山学院創立140周年記念トークセッション「挑戦する君たちへ ～夢を追い続ける3人からのメッセージ～」

三木谷 浩史さん

Profile
楽天株式会社 代表取締役会長兼社長。一橋大学卒業後、日本興業銀行(現みずほフィナンシャルグループ)に入行。1993年ハーバード大学にてMBA取得。日本興業銀行を退職後、1996年クリムゾングループを設立。1997年2月株式会社エム・ディー・エム(現・楽天株式会社)設立、代表取締役社長就任。同年5月インターネット・ショッピングモール「楽天市場」を開設。

熊谷 正寿さん

Profile
GMOインターネット株式会社 代表取締役会長兼社長・グループ代表。東証一部上場企業グループであるGMOインターネットグループを率いる。1995年にインターネット事業を開始して以来、「すべての人にインターネット」を合言葉に掲げ、フルスクラッチで自社開発する高い技術力を背景に、「日本を代表する総合インターネットグループ」として事業を展開している。

藤田 晋さん

Profile
株式会社サイバーエージェント 代表取締役社長。本学経営学部卒業。1998年、24歳でサイバーエージェントを設立し、2000年に当時史上最年少社長として26歳で東証マザーズ上場、2014年9月に東証一部へ市場変更した。創業から一貫して、インターネット産業において高い成長を遂げる会社づくりを目指し、「21世紀を代表する会社を創る」を会社のビジョンに掲げる。

2014年12月13日(土)、青山キャンパスの本多記念国際会議場にて、本学院の高等部生から短大・大学生、校友、一般の方々、教職員を対象とした青山学院創立140周年記念トークセッションを開催しました。ゲストは、日本を代表する経営者である三木谷浩史氏(楽天株式会社)、熊谷正寿氏(GMOインターネット株式会社)、藤田晋氏(株式会社サイバーエージェント)の三名。フリーアナウンサーの小林麻耶氏(2003年文学部英米文学科卒業)を司会に、これまでの経験と企業を率いる経営者の視点から、起業のきっかけや企業に求められる人材などについて語っていただきました。

トークセッションは学生時代の話からスタート。大学時代、テニス部のキャプテンをしていたという三木谷氏は、「100人ほどの部員をまとめつつ、練習のプログラムを考えたりOBから寄付を募ったりと、振り返ればあれが最初の経営の経験。勉強についてはもう少しリベラルアーツを学んでおけばよかったと思います」。本学出身の藤田氏は「1、2年は麻雀漬けで留年してしまったほど。転機は3年の時に始めた広告代理店でのアルバイトで、授業も楽しくなり起業への思いが強まりました」。熊谷氏は「高校は中退、放送大学の1期生になるも10年在籍して最後は退学。うまくいかないことを人のせいにばかりする自分を変えたくて本を読みまくりました。人の行動の9割は習慣なので、皆さんはぜひ今のうちによい習慣を身に付けてください」と、最初から御三方の個性あふれる発言が飛び出しました。

続いての話題は起業した理由に。藤田氏は「バイト先の広告代理店は経営陣が30代。自分と10歳程度しか違わない社長を目の当たりにして、それまで雲の上のような存在だった社長という立場が身近に感じられるようになりました。同時に、苦しみつつも自分の考えで組織をつくり経営し、競争社会で生き残っている姿を見るほど、起業するイメージがリアルに感じられるようになっていきました。卒業後は、一度は会社員をしてみようと就職する道を選びましたが、できるだけ早く起業したいと、その機会を待っていました」。熊谷氏は「将来は父の仕事を継ぎ社長になると小さい頃から思い込んでいたのですが、社長は長男である兄がなると聞き夢を打ち砕かれました(笑)。20歳前後から自分で自分の人生を築きたい、起業したいという気持ちが強くなっていき実現できたわけですが、株式会社帝国データバンクによると、起業した会社は5年で70%、10年で97～98%が消滅するそうです。20年続いている会社に至っては0.3%しかありません。起業することは簡単だけれど生き残るのは難しいということですが、ルールさえ分かっていれば起業ほど楽しいことはないと思います」。三木谷氏は「実は起業は自分の発想に無かったことです。ところが銀行員時代に留学したハーバードビジネススクールでは一番優秀な人たちが起業するものですから、私も考えが一変しました。最初はベンチャー企業を応援する投資会社をつくろうと思ったのですが、投資したい会社が見つからなかったので楽天を始めました。また、大企業を退職し起業して成功すれば後に続く人がきっと増える、自分がそのロールモデルになろうという社会的ビジョンもありました」と話されました。また三木谷氏は企業にグローバル化が求められる理由について、世界に占める日本のGNPが現在の12～13%から2050年には4%程度になることを指摘。「日本人だけで96%の市場を相手に経営していくのは厳しくなるため、世界の優秀なブレインを集めてビジネスをしたほうがおのずと可能性は広がります」。

今後の会社の展望について、藤田氏は「20世紀、いくつかの企業は世界に誇る会社となりました。21世紀にそういった会社になろうというのが、サイバーエージェントのビジョンです」。熊谷氏は「インターネットのベースを支えるサービスの分野で世界一を目指すため、会社のグローバル化を進めていきます」と話されました。三木谷氏は会社に求める人材を「AがだめならB、BがだめならCと方法を変えてチャレンジできる人。仕事はスポーツと違ってスリーストライクやゲームセットがなく、何度でも挑戦できます」。

質疑応答では「勝負をかけるときだと感じた人生の分岐点は」「成功の定義とは」「起業して成功した要因は」など多数の質問の手が挙がりました。その後、安藤孝四郎理事長が「三人のお話を伺って、成功の秘訣とは、まさに夢に向かって挑戦する気持ちを持ち続けることだと感じました」と挨拶。青山学院創立140周年記念行事のラストを飾るにふさわしい、大いに盛り上がったトークセッションとなりました。

「天然ガストラックマーケティングコンテスト」「第2回広告学会関東部会学生広告論文賞」入賞

2014年11月に開催された「天然ガストラックマーケティングコンテスト」で、久保田ゼミの学生チームが提案した「擬人化による天然ガストラック普及プロモーション案」が3位に入賞しました。さらに2015年1月には「第2回広告学会関東部会学生広告論文賞」で、久保田ゼミの3チームが金賞、銀賞、佳作を受賞しました。

AGU Lecture 075

マーケティング

久保田 進彦
経営学部 マーケティング学科教授

企業の売り上げや利益はマーケティングに大きく左右されるため、マーケティングは「ビジネスの中核」といわれます。私のゼミナール（ゼミ）では、「マーケティングの専門的知識」と「考える力」を身に付けることを目的としています。実践的知識は実務を通して覚えることができても、企業や組織で働きながらマーケティングの理論を体系的に学ぶことは容易ではありません。そこでゼミでは実践よりも理論を重視、大学でしか学べないことを追求し、「すぐ役立つ力」よりも「いつまでも役立つ力」を身に付けてもらいたいと考えています。就職してからも自分で勉強できる土台を学生のときにつくるべく、ゼミの活動は研究が中心です。

ゼミ生が研究したことをアウトプットする手段には論文を用いていますが、これはプレゼンテーションと違って書いたものが形として残ることに意義があると思うからです。さらに論文作成は必ずグループ単位としています。グループだと一人で作成するより密度の濃いものができる一方、意見の相違やペースの違いなど、グループゆえに発生する問題もあります。そういったことは社会に出れば必ず遭遇するものなので、パーフェクトでないチームでいかに問題解決をしつつ作業を進めていくかも勉強なのです。成果を出すことも大事ですが、ゼミ生にはプロセスからも学んでほしいと思っています。

ゼミではパワーポイントを使用せず、A4のレジュメを用いています。紙芝居のようにどんどん画面が変わっていくパワーポイントは、最初と最後のつじつまが合っていなくても気付きにくいものです。けれどレジュメはすべて文章なので「こっちでは“情緒”と書いているのに、こっちでは“感情”となっている」といった具合に、小さな差異を一目で見つけることができ、研究に必要な一貫性を保てます。また、普段はできるだけ手を出さず、ゼミ生の自主性を重視しています。私がすべてに指示を出せばしっかりそれをこなすでしょうが、卒業後を考えると、そのような形が望ましいとは思えません。実際、ゼミ生は専門的知識だけでなく、考え抜く力やチームで働く力といった、いわゆる社会人基礎力も伸びました。とりわけ一つ下の学年がゼミに入ってくると、それまでいたゼミ生の成長がよく分かります。

マーケティングを学ぶために大事なことは、好奇心を持つことと、地道な努力を重ねていくこと。これはどの分野にも共通していることかもしれません。興味のある分野であれば、とことん学び追求できますし、いろいろな人との関わりから、人間的にも成長してほしいと思います。

久保田ゼミ学生
前田 里菜さん
経営学部
マーケティング学科4年
日本大学高等学校出身

マーケティング学科で勉強していく中で、学んだことをもっと自分の中で積み重ねていきたい、マーケティングをよりしっかり系統立てて勉強したいという思いが強まり、久保田先生のゼミに入りました。ゼミでは論文を2本作成、「第1回広告学会関東部会学生広告論文賞」と「2014年度青山学院大学経営学部学生懸賞論文」で入賞した他、「天然ガストラックマーケティングコンテスト」でも結果を残すことができました。これらはグループの全員で頑張ったから得られた結果だと思います。とはいえ、ゼミに入って初めて取り組んだ論文のときは、役割分担ができていなかったり不毛な議論に長い時間を費やしたりと、苦労が絶えませんでした。意見が合わないことも時々ありました。けれど次第に、お互い強い言葉や態度で押し切るのではなく、根拠に基づいた説得力のある説明ができるようになり、実のある議論へとつながっていきました。先生からの「いろいろな論文をたくさん読むとよい」というアドバイスも、とてもためになりました。ゼミで学んだことで、一つの物事に対してその表面だけでなく、多面的にとらえられるようになったと感じます。また、論文やコンテストを通じて、自分の学んできたことが実務でも生かされると分かったことは大きな自信になりました。内定先の企業ではゼミで培った知識を生かし、いずれはマーケティングの部署で働きたいと思っています。

Information

就職活動時期の変更を受けて

日本経団連の「採用選考に関する指針」により、企業の採用選考の広報活動の開始が3年生の3月1日以降、選考活動は4年生の8月1日以降へ変更されました。この変更は、現3年生（2016年3月卒業見込者）から適用されることになりました。2015年度以降の進路・就職支援の大幅な見直しが必要となっています。

進路・就職支援のプロセス（2015年度 予定）

※行事は変更が生じる場合があります

1・2年次　自分の将来の進路について考え行動する

学生生活の充実
学業
部活
サークル
アドバイザー・グループ
インターンシップ
アルバイト
旅行

【主な進路・就職支援行事】
- ●進路・就職オリエンテーション
- ●自己価値発見セミナー
- ●インターンシップガイダンス
- ●インターンシップマナー講座
- ●企業見学
- ●OB・OGによる仕事・業界理解セミナー
- ●〈公務員〉集中講座説明会

【随時】個別相談

3年次、修士1年次　自分の将来の進路に向けた具体的な行動を取る

自己分析
業界・企業研究

【主な進路・就職支援行事】

4〜8月
- ●進路・就職ガイダンス①
- ●U・Iターンセミナー①
- ●OB・OGによる仕事・業界理解セミナー
- ●〈教員〉公立学校採用試験対策セミナー
- ●インターンシップガイダンス
- ●英文履歴書・面接対策講座
- ●〈公務員〉対策学外講座説明会

10月
- ●進路・就職ガイダンス②

11〜12月
- ●自己分析セミナー
- ●業界・職種の理解
- ●一般常識模擬試験
- ●模擬グループ面接
- ●ビジネスマナーセミナー
- ●内定者による就活ボランティア活動
- ●進路・就職ガイダンス③
- ●〈公務員〉業務説明会
- ●エントリーシート対策講座
- ●SPI模擬試験
- ●面接講座
- ●模擬グループディスカッション
- ●U・Iターンセミナー②
- ●OB・OGによる仕事・業界理解セミナー
- ●〈公務員〉ガイダンス
- ●〈教員〉私立小中高教員就職セミナー

1〜2月

企業との接触開始
3月〜
- ●学内企業説明会
- ●他大学合同模擬グループ・ディスカッション
- ●OB・OGによる模擬面接
- ●〈教員〉公立学校教員選考学内説明会
- ●〈公務員〉試験合格者報告会

【随時】個別相談

4年次、修士2年次

エントリー
履歴書・エントリーシート提出
企業説明会
選考試験（筆記、面接）

内々定
8月〜
（企業によっては4月〜）

内定
10月〜

【主な進路・就職支援行事】
- ●面接対策実践編
- ●働く前の法知識
- ●〈公務員〉面接対策講座
- ●学内企業説明会
- ●リスタート就職ガイダンス
- ●面接対策実践編
- ●個別相談会

【随時】個別相談

卒業、修了

本学の進路・就職支援体制

1. 個別相談
学生一人一人の「納得できる進路選択」を目指し、専門のキャリアカウンセラーを含めた全スタッフで個別相談に取り組んでいます。

2. 進路・就職支援行事の開催
卒業生による講演やキャリアデザイン講座、インターンシップの説明会など、また、公務員・教員を目指す学生への支援行事にも力を入れています。さらに、年間約1,200社の優良企業による会社説明会を学内で実施しています。

3. 就職活動情報・求人情報・卒業生情報提供
本学に送付される求人票や会社案内、内定者による体験記など、本学ならではの資料を完備しており、OB・OG名簿も閲覧できます。

4. 進路状況・支援体制満足度調査
進路把握率は、ほぼ100%を保ち、詳細な統計資料を提供しています。学生支援体制の満足度調査により、常に改善・見直しを図っています。

5. 企業との情報交換
青山・相模原の両キャンパスを合わせ、年間約1,450社の採用担当者に来訪いただき、企業概要や採用実績、採用計画などの情報収集に努めています。

6. OB・OGからの協力
校友会組織と連携し、各界で活躍されているOB・OGの方々にさまざまな支援をいただいています。「卒業生による業界研究」「模擬面接会」など優秀な先輩たちの卒業後の経験を生かした支援行事を開催しています。卒業後も就職活動を継続する学生に対しては、バックアップ体制を整えています。

進路の報告のお願い

卒業・修了が決定した学生は、「進路届」を「Web Ash」、もしくは進路・就職センター（青山キャンパス）、相模原事務部進路・就職課（相模原キャンパス）へ提出してください。
※青山キャンパス所属大学院生は、学位記の受け取りの際に「進路届」を提出

多くの企業から注目を集め、毎年高い就職率を挙げています。

（2013年度実績）

- 学内での企業説明会 年間約 1,200社
- 開催プログラム 年間 400 回以上
- 進路決定率 88.6%
- 進路満足度 人文・社会科学系学部 72.8% 理工・社会情報学部 78.2%
- 求人企業 約6,000社
- 卒業生 32万人

「Web Ash（進路就職支援システム）」が7月にリニューアルされます。

使いやすさが向上し、「自分の望む進路」を実現するための有効なツールとなります。

- ●初めての人も簡単に使いこなせる仕様
- ●企業の基本情報以外に、求人、OB・OG、インターンシップなどの有効な情報が入手可能。
- ●希望する企業をリスト化できます。
- ●大学からの支援もより受けやすくなります。
  ⇨個別相談の空き状況が確認可能（青山キャンパスのみ）。行事予約もできます。

Information

2015年度 保護者対象説明会について

本学では、大学後援会事業の一環として、大学の近況を保護者の皆さまにお知らせするとともに、大学生活等についてのご相談やご意見を伺い、それを大学運営に反映させることを目的に懇談会を実施しています。2015年度につきましては、保護者の皆さまからの貴重なご意見やご指摘を踏まえ、以下のとおり開催予定です。

開催概要として、キャンパス開催（青山キャンパスおよび相模原キャンパス）においては、①新入生の保護者の方々を対象としたキャンパス見学会、②2、3年生の保護者の方々を対象とした学業説明会、③3年生の保護者の方々を対象とした就職説明会を予定しております。

キャンパス見学会（青山キャンパス）

また、地区別開催のペアレンツウィークエンド（父母懇談会）においては、全体説明会（大学教員からの近況報告、各担当大学職員からの進路就職・学業・学生生活の説明）、懇談会（昼食会）、個別面談（希望者のみ）を予定しております。

開催時期につきましては、キャンパス開催は5～6月、地区別開催は6～8月の実施予定となっております。お申し込み方法や開催内容の詳細なご案内は4月下旬から5月上旬にお送りいたします。本学ウェブサイトでも4月以降、情報を更新していく予定です。どうぞご参照ください。

ペアレンツウィークエンド（浜松）

【問い合わせ先】
庶務部庶務課
TEL：03-3409-8568

「青山学院大学教育振興資金」寄付者のご芳名掲載に関するお知らせ

日頃より青山学院大学の教育研究活動に関してご理解、ご支援を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、2014年度より「青山学院大学教育振興資金」寄付者のご芳名を本誌にて掲載させていただいております。2014年4月1日～9月10日の間にご寄付いただいた保証人の皆さまのご芳名は、74号（2014年10月発行）で掲載いたしました。2014年9月11日～2015年3月31日の間にご寄付いただいた保証人の皆さまのご芳名は、77号（2015年5月発行）で掲載予定です。

また、2015年3月に本学を卒業する4年生の保証人で、ご寄付いただいた皆さまには、別途77号を送付させていただきます。

なお、本誌PDF版を本学ウェブサイトでご覧いただくことができます。

【問い合わせ先】
政策・企画部
TEL：03-3409-9612

2015年度 一般入学試験・大学入試センター試験利用入学試験報告

2015年度一般入学試験・大学入試センター試験利用入学試験はすべての試験が終了し、志願者数は、一般入学試験は45,544名（前年度42,121名）、大学入試センター試験利用入学試験は14,194名（前年度13,772名）でした。

なお一般入学試験においては、最も志願者数の多い試験日で約6,600名の受験者が青山キャンパスに来校しました。悪天候の日程もありましたが、例年通り本学学生団体（吹奏楽バトントワリング部ならびにキャンパスツアーガイドボランティア）や入試アシスタント学生が、多くの受験者の正門入場や試験室への適切な誘導、試験室の監督補助などを行い、2015年度も学生の大きな協力を得て一般入学試験は無事に終了しました。

正門で受験票を確認する「吹奏楽バトントワリング部」の学生たち

試験室に受験者を誘導する「キャンパスツアーガイドボランティア」の学生

2015年度 学年初頭行事

2015年度の授業は4月7日（火）から始まります。授業開始に先立ち、3月28日（土）～4月6日（月）に書類配布や履修ガイダンス、学生証更新、健康診断など大切な行事があります。研究科・専攻※、学部・学科、学年によってスケジュールが異なるので、学生ポータル「2015年度初頭行事日程」を確認し、指定の日時・場所に必ず登校してください。

※専門職大学院の初頭行事日程は他の研究科・学部と異なります。学生ポータルのメッセージ欄でご確認ください。

青山学院大学教育ローン

本学には、学部生・大学院生を対象とした銀行提携「教育ローン」制度があります。この制度は、青山学院と銀行が特別に提携し、一般の教育ローンより有利な条件を設定したものです。青山学院大学で学ぶ意志がありながら、経済的理由により修学を断念することのないよう、在学中の経済的な不安を解消し、勉学に専念できるよう配慮した経済支援制度です。

[特　徴]
1. 一般の教育ローンより低金利で融資を受けることができます。
2. 在学期間中の元金返済据置の制度もあります（在学中は利息のみを支払い、卒業後、元利を併せて返済することができます）。
3. 原則として、融資された学費等は本学の学費振込用紙によって直接青山学院に振り込まれます。
4. 既に学費を納入した場合でも、一定期間内であれば融資を受けることができます。

[利用資格] 本学学部生・大学院生の保護者または学生本人で銀行の定めた資格を有することが必要です。

[必要書類]
1. 資金使途確認資料…学費納付書等
2. 本人確認資料……印鑑証明書、住民票、運転免許証、健康保険証の写し等のいずれか1通
3. 所得確認資料……所得証明書、源泉徴収票等のいずれか1通

[注意事項]
1. 契約はすべて銀行と融資を受ける者が行います。
2. 融資は学費（授業料他）等の教育資金に限ります。
3. 銀行によって、融資条件・金利等の契約内容に若干の差がありますので、契約する銀行に照会してください。

[提携銀行]
・みずほ銀行
　渋谷中央支店ローン担当係　TEL：03-3462-0313
・三井住友銀行
　全国の支店
・三菱東京UFJ銀行
　全国の支店

Club & Circle 26 男子ラクロス部

仲間と切磋琢磨しながら1部昇格を目指しています。

活動は週5日。部員はみんな仲が良く、先輩・後輩の垣根を越えて互いに刺激し合える関係です。チームは現在、関東学生ラクロスリーグの2部に所属しています。昨シーズンの成績は、「第27回　関東学生ラクロスリーグ戦　2部Bブロック」で4位という結果でした。今は1部昇格に向けて、みんなで切磋琢磨しながら練習に励んでいます。

学生ラクロスには、各大学の代表者でつくる委員会が3つあるので、他大学との交流も盛んです。練習試合や合同試合も頻繁に行うので、学外の友人もつくりやすいと思います。

これまでの試合の中でいちばん印象に残っているのは、昨シーズンのリーグ戦初戦、上智大学との試合です。上智大学は1部から降格してきたばかりの強豪で、春の新歓試合で引き分けた因縁の相手でもありました。試合は序盤から青学ペースで進行。選手一人一人が自分の役割を果たした結果、8対2で勝利できました。まさに“全員でつかみとった勝利”だったと思います。苦しい練習を乗り越えて、仲間とともに勝利を味わった最高の瞬間でした。このように、喜びも苦しみも分かち合える仲間と巡り会えたことが、ラクロス部でのいちばんの収穫です。

8月からはまたリーグ戦が始まります。1部昇格を目指して仲間と一丸となって頑張りますので、少しでも興味がある人はぜひ試合に足を運び、応援していただけたら幸いです。

（主務：経営学部 経営学科3年　井上 浩次朗　記）

卒業生の皆さまへ

青山学院校友会ウェブサイト　http://www.alumni-aogaku.jp/

青山学院には、卒業生同士の親睦を深め、母校との絆をつなぐ「青山学院校友会」が組織され、すべての卒業生が正会員として迎えられます。国内56カ所・海外19カ所の地域支部の他、各学部・学科ごとの同窓会や、職種別団体・部活動OB団体等の参加するアイビーグループによって構成されており、多彩な活動を行っています。ぜひ積極的に校友会各組織にご参加ください。

なお、校友会に関する事務局は「青山学院校友センター」となります。校友センターは卒業生の住所など基本情報を管理し、卒業生と母校青山学院とを結ぶ窓口となっています。氏名、住所等に変更が生じた場合は、必ず校友センターへお知らせください。校友センターに寄せられた個人情報は「学校法人青山学院個人情報保護基本方針」にのっとって厳重に管理し、青山学院および校友会活動にかかわることにのみ活用されます。

青山学院の広報誌　卒業後、『AGU NEWS』の発送は終了しますが、下記の広報誌を通して卒業生の皆さまに「青山学院の今」をお伝えしていきます。

『あなたと青山学院』

住所の判明している校友全員に定期的に無料でお送りしています。

住所変更・発送に関する問い合わせ先

青山学院校友センター　TEL：03-3409-6645
E-mail：agkoyu@aoyamagakuin.jp

『青山学報』

1916年に創刊した青山学院の機関誌で、幼稚園から大学・大学院まで青山学院全体の情報をお伝えしています。年4回の発行で、年間定期購読料は2,000円です。

定期購読に関する問い合わせ先

青山学院購買会　TEL：03-3409-4401

アエラ大学ムック『青山学院 by AERA』刊行

アエラ大学ムック『青山学院 by AERA ～すべての人と社会のために～』を刊行しました。

140年の歴史と伝統や美しいキャンパス、社会的に高い評価を受ける教育・研究、「地の塩、世の光」を体現して世界で活躍する校友たち、在校生の今など、これまであまり知られることのなかった青山学院の多彩な魅力が盛り込まれています。

朝日新聞出版発行　定価：本体840円+税

創立140周年記念ムービー

創立140周年を記念し、これまでの学院の歴史を振り返るとともに、学院の今を伝え、未来にも思いを馳せることができる記念ムービーを制作しました。ムービーは、青山学院公式ウェブサイトからご覧いただけます。

青山学院公式ウェブサイト　http://www.aoyamagakuin.jp/

「140秒・立志」篇

「飛翔」篇

「140秒・英語」篇

青山学院エバーグリーン募金　2014年度「青山学院スカラーシップ」のご報告

「青山学院スカラーシップ」は、「奨学金募金」へのご寄付による給付型の奨学金制度です。寄付者のお名前等を付した「冠奨学金」と、いただいたご寄付をまとめて「エバーグリーン奨学金」としたものがあり、2014年度は、大学・大学院では47件の奨学金を254名の学生に給付することができました。感謝をもってご報告いたします。今後とも一層のご支援をお願い申し上げます。

●寄付者から学生へ

あなたも私も、共に青山ファミリーの一員です。あなたを応援できることは、私の大きな喜びです。どうか、学生生活を満喫され、その学びが実り、豊かなものとなりますように。「地の塩、世の光」を心に覚え、いつの日か、あなたも、後輩を、そして青山学院を支える一人になってください。

経済的に困難な中にあると伺っています。学業とアルバイトを両立させることはなかなか大変なことと思いますが、志を高く持ち、この試練を乗り越え、学業を全うしてください。十分なことはできませんが、少しでも支えになればと思っています。日々の歩みの上に豊かな主の恵みと導きがありますように。

青山学院での学びが今の私たちの基礎となっています。母校への恩返しと未来を担う若者のためとなる機会をいただき、本当に嬉しく思います。感謝の気持ちを込めて、母校で学ぶ学生たちが学業を断念することなく希望を持ち続けていられますように、ささやかながら協力させていただきます。青山学院を巣立ち、社会に貢献することができるように、自分のなすべきことを行い、感謝の心を育て、大きく成長していってください。

●学生から寄付者へ

奨学生に採用されたことで、アルバイトをする時間を削減することができ、研究に励むことができました。そのため、研究成果も得られ、学会でも認められて最優秀学生賞を受賞することができました。この受賞も奨学金をいただき十分な研究時間を確保させていただいた結果だと思い、心から御礼申し上げます。

奨学金採用の知らせを聞く前と後では、普段の生活における気持ちの持ちようが格段に変化しました。ふとしたきっかけで経済的な心配事を思い出し、落ち着いた心持ちで勉学に取り組むことができなかった頃に比べると、現在の状況は本当に恵まれていると感じます。一分一秒を大切にし、勉学に励み、そして大学生の間にしかできない貴重な体験を少しでも多く経験したいと思っています。

私は学費を自分で賄わなければならないため、アルバイトを週6日していました。奨学金をいただいたことで学費を工面することができ、アルバイトを週3日に減らすことができました。アルバイトに費やしていた時間を勉強やサークル活動、ボランティア活動などに使うことができ、充実した学生生活を送ることができています。

資料請求 問い合わせ先

青山学院エバーグリーン募金推進本部
TEL：03-3409-6208　FAX：03-3409-3890
E-mail：bokin@aoyamagakuin.jp
http://www.aoyamagakuin.jp/support/index.html

≫インターネットからのご寄付も可能です。

青山学院　募金　検索

AGU NEWSについて

青山学院大学では、大学広報誌「AGU NEWS」を発行し、在学生の保証人の方々へ送付しています。また、在学生を対象としてキャンパス内専用スタンドにて配布しています。

●バックナンバーは、本学ウェブサイトでご覧いただけます。
●確実に保証人の方々へお届けするため、住所が変更になった場合は、学生ポータルを利用し、**学生本人が変更手続きをしてください。**

PRINTED WITH SOY INK

発行元：青山学院大学 入学広報部
TEL：03-3409-8627

本誌掲載の記事、写真、図版などの無断転載・複製を禁じます©2015青山学院大学

●2015年3月20日発行●